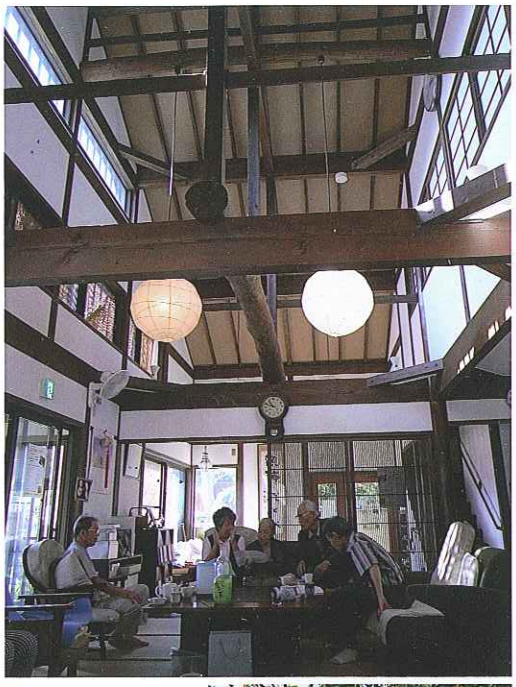
建築ジャーナル

2009年 October No.1156

第1156号
2009年10月1日発行
(月1回・1日発行)
1964年7月13日
第3種郵便物許可
ISSN 1343-3849

10

「施設整備は財政上困難。全国基準を緩和し『ケア付すまい』を増やす」猪瀬直樹東京副知事
コラム1　東京都品川区　閉校になった中学校を高齢者福祉施設に改修
「既存の施設・人的資源を活用し地域に根ざす活動をつづける」大阪府・街かどデイハウス
「ひとりひとりの問題と向き合い、住み慣れたまちで最期を迎える」第二宅老所よりあい
「ホームセンターを高齢者施設に改修し、地方再生に寄与」総合ケアセンター榛名荘
「全室個室・ユニット化は絶対条件。『施設』ではなく『住まい』を提供」けま喜楽苑
「巨大施設は大量生産と同じ。介護サービスは在宅で24時間を受ける時代に」高橋紘士
コラム2　高齢者総合ケアセンターこぶし園(新潟県長岡市)の実践
厚労省＝2011年までに16万人分の介護施設・地域介護の整備を目標
特養ホームを良くする市民の会＝特養ホーム「全室個室化」の実現を
「待機者45万人を受け入れるために国は多床室の整備を急げ」中田清



特集｜21世紀型高齢者施設はこれだ!

施設は、家族やコミュニティを遮断し、いわば人生の終わりを待つ「終着駅」です。高齢者が早くから安心できる「ケア付すまい」を用意することは、介護度の悪化を予防するとともに、社会保障費の軽減にもつながります(インタビュー・猪瀬直樹)。すべての施設が個室・ユニット型となった場合、国民年金受給者はほぼ入所できない。在宅介護に代わる器として、施設の多床室を整備することは、公共の役割だと受け止めています(インタビュー・中田清)。

各地域に拠点を置く設計事務所の作品集
建築集

モダニズム建築のメッセージ
国際建築(インターナショナル・スタイル)という方法の現在形
―松隈洋

松村正恒の遺した一輪の花である日土小学校は、忘れられた国際建築に込められていた方法の現在形として、その具現化された空間として、そして、何よりも、子供たちと地域の核として再生し、普段づかいされる遺産として、今また、新しい時間を生き始めようとしている。

美しき構造設計の世界⑩
岡村仁「マンジャロッティの一連の作品」

論評
民主党政権で環境・住宅政策が劇的に変わる＝山岡淳一郎

オピニオンの視線
市民協働で武蔵野市の景観をつくりたい＝邑上守正

五十嵐太郎の先読み編集局
「こたつ問題」をめぐって